

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立小松高等学校)

学校番号 (11)

評価実施日		令和2年2月18日(月)		
委員	氏名	所属等		備考
	池内 修	学校評議員	自治会役員	
	曾我部米治	学校評議員	小松公民館長	
	目見田 康介	学校評議員	元小松中学校長	
	真鍋 明	学校評議員	マルブン社長	
	岡田 光	西条市立小松中学校長		
	藤原 正三	西条市立小松小学校長		
	中川 雄介	P T A 会長		
	上田 昇	P T A 副会長		
	青野 裕美	P T A 副会長		
	川又ゆかり	P T A 副会長		
富永 梓	P T A 副会長			
評価・提言等		提言等に対する改善方策等		
1 今年度の最終評価について (1) 学習指導 生徒に対するアンケート結果から、授業の内容が理解できていないという生徒がここ数年一定数いる。学校の思うようには学習の定着ができていないが、指導方法の工夫などを行い、教師の力量向上に努めてほしい。 家庭学習時間の120分という目標が、考査期間中以外は達成できていないのは、スマホやネットの普及が原因と考えられる。このことが、家庭学習のマイナスにならないように「情報モラル」の指導を併せて行ってほしい。また、つまづきを感じている生徒に対して声掛けも行ってほしい。 家庭学習の時間は、個人の意志・通学時間・部活動の状況など個々の事情も影響する。時間を気にするだけでなく、「学力がどの程度定着しているか」という質の部分を評価できるようにしてほしい。 (2) 生徒指導 遅刻ゼロの日が昨年度には60日を超えていたが、今年度45日に減少している。また、年間出席率は目標を達成してはいるものの昨年度より低い。原因や状況について究明し、来年度に生かしてほしい。 登下校時のヘルメット着用はできているが、それ以外での着用状況がよくない。また、今年度になってJRの乗車マナーが気になる生徒もいる。学校の評判を下げることはないよう地域でも指導に協力したい。 (3) 進路指導 インターンシップで、毎年職場体験を行っているが、礼儀正しく意欲的で挨拶もよくでき、感心している。生徒の進学、就職につなげるため評判を落とさないように身だしなみやルール遵守などと連携した指導を心掛けてほしい。		課題を出す際に、個に応じた内容や適切な分量を検討するなどして、生徒一人一人が、達成感を得られることで一生懸命学習に取り組む雰囲気醸成したい。 面接や家庭学習時間調査を通して、生活習慣の見直しを図るとともに、学校行事や教科「情報」などを通して、情報モラルについて学習する機会を増やす。また、教育相談やスクールライフアドバイザーとの連携を密にし、困り感のある生徒への理解と支援に努めたい。 高校生のための学びの基礎診断を活用して過年度との学力を比較したり、漢字検定や英語検定、商業検定などの取得を推奨することで、学力の到達度を測ったりする。また、個に応じた学習方法の確立や目標設定などの支援を行いたい。 3月が臨時休業となり、単純に比較はできないものの、基本的な生活習慣の定着ができていない生徒や体調を崩し欠席が目立つ生徒の増加により、数値目標達成が難しくなっている。基本的な生活習慣の確立と併せて、一層の自己管理を促したい。 登下校時の通学路や駅周辺の見回りを何回か行っており、外部からの連絡についてもすぐに対処するようにしている。ルール・マナー遵守について、学校生活全体を通して繰り返し伝え、身に付けさせたい。 普通科と家庭科が別々に行っていたインターンシップを進路課中心に一元化することで、更に充実させたい。生徒の要望に応じた企業開拓をするとともに、全体指導の強化を図り、事前事後指導を徹底させたい。		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>(4) 特別活動</p> <p>自己評価では部活動に対する評価が低く、途中退部など難しい問題もあるが、生徒のために充実した活動を今後も継続してほしい。一年生入部時に体験期間を設ければ新しく始める部活動にも定着しやすくなるのではないかと。</p> <p>生徒会活動や奉仕活動など、生徒は、積極的に活動している。また、部活動や学校行事などの様子が、ホームページを通してよくわかるようになってきている。</p> <p>(5) 地域協働</p> <p>文部科学省指定の地域協働の事業も行っており、地域と連携した活動が活発になっている。「小松未来塾」や「小松文化祭」など公民館活動や小中学校行事にも参加しており、地域に根差した活動がよくできている。地域づくりは地域の課題を解決することであり、地域づくりのために更に小中高の連携を強めてほしい。</p> <p>2 学校運営への提言</p> <p>アンケート結果から校長のリーダーシップを初め、教職員の学校運営、総務、厚生、保健相談に対する評価が上昇している。保護者の学校に対する評価も高い数値を維持しているが、生徒において低下傾向にある。多様化する生徒に目を向けてほしい。</p> <p>教職員が、地域のよさに目を向け、共通理解のもと地域の中で協働して学校運営をおこなっているという一体感がある。それが、入学してよかったと思える小松高校、地域に根付いた学校として保護者に安心感を与えており、今後も中学生に推薦できる学校として更に努力を続けてほしい。</p>	<p>総体予選出場のため、登録までの期間が短い現状はあるが、年間を通して多様な部活動の維持・活性化に努め、途中退部生徒の減少と再度入部できる雰囲気づくりをしたい。</p> <p>ホームページを毎日更新することで、様々な学校での活動の様子を情報発信するようにしている。引き続き、学校の様子を情報発信できるようにしたい。</p> <p>文部科学省指定の地域協働の事業が二年目となることで、ライフデザイン科のみならず普通科においても、地域の諸行事に参加する機会を増やしたり、地域人材の活用を進めたりするなど、双方向の地域との連携を目指したい。</p> <p>年度末だけでなく、年度途中でも教職員からの提言があれば協議し、最善の方策がとれる体制を整えてきた。教職員間での連携、家庭・地域との連携を密にし、課題解決に向けて学校全体で取り組んでいるという姿勢を生徒・家庭・地域に伝えていきたい。</p> <p>地域との協働事業で培っているノウハウをライフデザイン科だけでなく普通科にも取り入れたり、「総合的な探究の時間」などで地域課題についての探究を実施することによって地域理解を深め、小松の伝統を継承した魅力あふれる学校づくりに積極的に取り組みたい。</p>